

四月は不安な季節

校長 武井 正明

皆さんは四月、好きですか？

四月ほど、その人の心の状態によって、好き嫌いが分かれる月もないですよ。

私は2年前、吉中に着任する時、大規模校に行く不安は大きかったけれど、ワクワクの方が勝っていました。今は不安もかなり減り、楽しみが圧倒的に大きいです。

これが自分の高校1年の四月は、全く違った…。

空は気持ちと同様、どんより曇り空。人間関係も新しくやり直さなければいけない。めんどくさいなあ。何か希望に燃えるものなどない。ここを卒業した後の自分の未来など、全くイメージできない。それなのに親や周囲は「夢をもて」と言う。毎日越後線で電車で揺られるのも、白山から歩いて高校まで行くのも、嫌で嫌でしょうがなかった…。

この頃、義母の様子がよろしくない。

朝おはようをしにいくと、台所に立って、眉間にしわを寄せ、いかにも不安そうな表情で私を見つめる。その表情は、ご近所の犬、ブランちゃんに似ている。季節の変化を敏感に感じ取っているのだろう。何が不安、というのも自分ではわからない様子だ。

不安というものの正体は、目に見えない未来であることが大半なのかもしれない。正体不明というやつだ。義母はいつも「御厄介になってすみません」と、謝らなくてもいいのによく頭を下げる。常に感謝以上に「自分は厄介者だ」という、申し訳ない意識が根底にあるからなのだろう。ずっといろんな人に気を配ってきた人だから、人の迷惑になるのが、最も気重なのだろう。全然迷惑ではないのになあ…。



その義母がご機嫌になる時がある。

それは「おいしいものを食べた時」先日は、近所に高齢者の職人さんたちが打つ、蕎麦の美味しいお店があり、そこで天ぷらそばを注文した。

「半分くらいなら食べられるかな…」で始まったが、気づけば並1人前をペロリ。「食べられるじゃん」そう、その笑顔。「そば道場」の皆さん、おいしいお蕎麦、本当にありがとうございます。義母が笑顔になりました。

そして3時のおやつに桜餅を食べて、私の淹れたコーヒーを飲む。その後は、無理やり私の強制マッサージタイム。頭から肩、腰、ふくらはぎから足裏と、順にツボを押していく。「バチが当たる〜っ!!」その夜は「邪気が抜けた〜」で熟睡となります。

そう。気が乗らない時は、おいしいものを食べて、しっかり寝ること。できれば太陽を浴びて、軽く表で動く。大人も中学生も同じ。無理しない。ひと休み、ひと休み…。特に新1年生の皆さん、力まず、ゆっくりと新学期を迎えましょうね。